

田んぼ10年プロジェクトの成果を引き継ぎ、 ポスト2020生物多様性目標とSDGsを実現する 田んぼの生物・文化多様性2030年プロジェクトの展開

活動地域  日本全域



ラムサール条約COP14サイドイベント

課題

田んぼでは、農法、農地構造、農地管理による環境変化が生息環境を悪化させている。水田での生物多様性の価値・危機等の情報が、農家や市民に普及されていない。

目標

世界生物多様性目標を水田で実現するため、国際会議に参加し情報収集・発信を行う。農家や市民との情報発信・意見交換のため、フォーラムの開催と情報誌の発行を行う。

今後の展望

世界生物多様性目標と水田目標2030との関係性を整理し、プロジェクト参加者と目標達成への実行計画を作成、開始する。海外の水田での生物多様性保全への波及効果を目指して、国際会議等で活動成果を発信する。

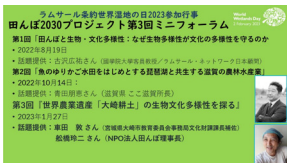
ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

ラムサール条約COP14でサイドイベントを開催し、田んぼの生物多様性保全の現況と世界目標実現を議論した。国内では、オンラインのミニフォーラムを3回開催し、古沢広祐氏（國學院大學 客員教授）から生物多様性保全と文化を、青田朋恵氏（滋賀県 ここ滋賀所長）から琵琶湖の世界農業遺産、車田敦氏（大崎市教育委員会）と船橋玲二氏（NPO法人田んぼ理事長）から世界農業遺産大崎耕土の活動紹介を受けた。農林水産省、環境省、国土交通省と水田決議円卓会議準備会を7回開催。「田んぼ10年だより」を3号刊行。



ミニフォーラム概要と第3回講師

ラムサール条約
COP14参加 **1回**

ミニフォーラム開催 **3回**

今年度計画の達成度 **80%**

全体計画の達成度 **30%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

生物多様性保全世界目標の決定が遅れ、国内活動計画へ反映できなかった。国際会議開催地が変更され、旅費が不足した。

■工夫した点

ミニフォーラムをオンラインにより開催し、全国からの参加を得た。また今後の連携先を事例紹介地とした。

〒110-0016
東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3F
電話：03-3834-6566
E-mail：info@ramnet-j.org
HP：http://www.ramnet-j.org/

